

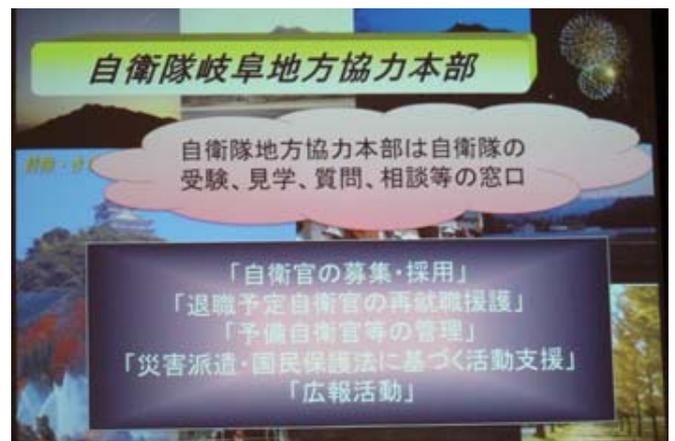
「東日本大震災における派遣活動」について

防衛省 自衛隊
岐阜地方協力本部長 後藤 雅人殿



まず、最初に岐阜地方協力本部の仕事の内容についてご説明します。自衛隊募集採用、見学希望されたい方の県の窓口、また自衛隊で定年を迎える方、任期制で退任された方の就職のお手伝い、予備自衛官の訓練及び管理を行っております。その他、国民保護法に於ける災害派遣、岐阜県で災害が発生した場合の活動をしており、県内に6箇所と航空自衛隊の中に事務所を構えており68名で現在活動をしております。

岐阜県を担当している35普通科連隊(愛知県守山)が約70日間、陸前高田、大船渡へ災害派遣を致しました。そのビデオを見て頂き、その後、一般的な災害派遣と諸活動のお話をさせて頂きたいと思えます。



3月11日災害発生と同時に、その夜、守山から現地に向かいました。自衛隊は、現地では、テントで生活です。名取市では、陸地でも水が3週間ほど引きませんでした。私も、4月20日過ぎに現地に行きましたが、家は根こそぎ流され基礎しか残っていない状態でした。冠水した場所では、胴長を現地調達して歩いての搜索、または、ヘリコプターで搜索を行いました。生存率は、72時間を過ぎると急激に落ちますので、4日間、96時間一睡もせず搜索救難を行いました。

ご遺体について自衛官は、法律的に本来かかわれないのですが、警察、消防だけでは、対応できないため、急遽、ご遺体の洗浄、納棺までさせて頂きました。

重機等については、不足するため現地で借りることによって作業を行い、搜索には、ご遺体に傷がつくということもあり、重機等は一切使わず手作業で行いました。生活支援における炊き出しは、最初は、雪の中で、温かいご飯は、全て被災した方々に食べて戴き、自衛官は、缶詰ないし、パックのご飯を一ヶ月食べていました。その結果、隊員は、ビタミン不足となり口内炎が

出来、サプリメントを飲ませました。また、隊員からは、お金を出し合って、この地域だけが名古屋からきしめんを取り寄せ食べて戴きました。



捜索している中で、アルバムなどいろいろな遺品があり、隊員の中から学校などに集めて展示させて頂くということが出てまいりました。仙台空港は冠水し壊滅状態でしたが、ここは、殆んど米軍が行いましたが、米軍の機動力とパワーを見せ付けられました。復旧のお手伝いをした、名取市の市長は、昨年10月には、35連隊にお礼にこられました。また、この間の日曜日には、連隊の50周年記念事業にも来られ、市長と連隊長と一緒に部屋でオペレーションしたということでまさしく戦友であるといわれておりました。

災害派遣というのは、地震、風水害、火山噴火、山林火災などがあり、その他、離島からの患者の輸送、特殊災害として、サリン・インフルエンザ・鳥インフルエンザなどに災害派遣が行われます。岐阜では、権現山の火災が2回、豪雪、水害などに派遣されております。

災害派遣は、全国で1年に平均380回、毎日どこかで必ず派遣され活動しているのが実情です。

これまで阪神淡路大震災が一番大規模でしたが、今回、まだ原子力発電災害が続いておりますので、阪神淡路大震災より1桁以上多いと思われれます。期間的には、雲仙普賢岳の1,658日というのがこれまでの記録であります。今回の地震は、これまでに起きた世界の地震の中で4番目に大きい地震で、震源地が点でなく4つのプレートが面で連動して起ったということで、5月の時点でも毎日地震が起っていました。あと、ライフラインである電気、水道、ガスも5月末で100万戸以上寸断されていたという状態で、今回の災害は、地震、津波、原発事故と複合型災害であったので、避難者、行方不明者、死亡者が多く自衛隊の派遣も多くなりました。

新しい事として、昨年夏に陸上幕僚長になられた東北方面総監の下に陸、海、空が一本化されました。最高時10万7千名が全国から集められ現地で活動しました。災害翌日には、2万、夕方には3万、2日後には、5万、一週間後に10万が派遣されました。ご遺体、瓦礫の処理、生活支援として、入浴支援が好評で小学校のグラウンドで7月まで行っておりました。その他、音楽演奏、海上自衛隊では、港が壊れているのでホバークラフトでの物資の輸送、原発への放水も岐阜から行きました。

実績として、救助できた数は、19,000強ですが、全体の72%くらいになります。今回は、初めて予備自衛官も派遣されました。米軍のほか、22カ国、4機関と沢山の国から派遣頂きました。

また、県が窓口となって民間からの支援物資を集め、空輸によって現地に運ぶという、初めて共同作戦というようなことも行いました。

私達も厳しいミッションではありましたが、子供さんから感謝の手紙を戴いたり、町中に自衛隊さん有難うという言葉が手書きの文字で張ってあり、私達、自衛官としては、それらが元気の源となり、子供達の笑顔のおかげで、あのような過酷の中でも私達が出来たんだと思っております。今こそ日本の底力、絆ということで、東北のみならず日本の復興再生に一丸となって頑張りたいと思います。



ロータークラブの歌の中にある一つの心として日本国民としてやるべきことではないかと思えます。現地の方は、われわれの迷彩服を見て、助かったという思いになられたということに思うに、われわれも、もっと日頃の訓練をしなければならぬと新たに身を引き締めなければと思っております。

今回、様々な教訓を我々も得ておりますが、自分の身体は自分自身で守るということを考える良い機会でもあったと思えます。

最後になりましたが、お知り合いの方が自衛隊に入りたいという方がお見えになりましたら、ご一報願えればと思えます。自衛隊には、退官した人、任期満了など優秀な人がいますので、皆様の会社で働く機会を作って頂ければ幸いです。有難うございました。